

南部中学校区 健全育成会だより

発行 南部中学校区青少年健全育成会事務局 浜松市中区龍禅寺町706 ☎454-4591

一生を終えて のちにのこるもの

健全育成会会長 あいさつ



今回、この原稿の筆を執るにあたり、姪子のエピソードを皆さんに紹介したいと思います。

高校を卒業する時に倫理の先生が教科書に書いてくださった言葉だそうです。

～ 一生を終えて のちにのこるもの ～
我々が集めたものではなく 我々が与えたものである

これはジェラルド・シャンドリという哲学者の言葉です。この言葉を聞いた時、なんだか不思議な感覚を覚えたことを今でも思い出します。聞いていけば当たり前のような、でも実はすごく難しいことなのではないか。

流行や若さの中にいた私には考えようとしなかった無縁のような言葉にはっとさせられた一瞬でした。もちろん好きなものを集めたり、何かの為に一生懸命働いたり。それらはとても大切だったり、大事なことだったりすると思います。

言葉の解釈には人それぞれいろいろな見解や意見があり、それは幅広く、道なき未知のようなものであると思います。

いろいろな人が歩む中で、その結果、大切な誰かに心あたたまる笑顔が残るような素敵な何かが残っていたなら国境や言語を越えて、そしてすべての生きとし生けるものにとって、平和や幸せにつながるようなそんな気がします。

南部中学校区青少年健全育成会会長
大場 敬丘

健全育成会副会長 あいさつ

コロナ禍で3年の歳月が流れました。大きな社会環境の変化があり、青少年健全育成会関係の主要な活動も出来ないでいるこのような状況の中で、児童生徒の健全育成のために御理解・御協力を頂き誠に有難うございます。

地域・学校では様々な活動の制限がある中で、親密な「ふれあい」ができませんが、地域の皆様と共に、「おはようございます。」「行ってらっしゃい。」「気を付けて！」等の挨拶や声掛けは日常的にして頂けているかと思えます。

子供たちが気分良く前に進むことができるように、ふれあいを重ね、広げていく地域の小さな御協力を頂ければと思います。

ひとりひとりが夢や希望をもち、目標に向かって、今だからこそできることを積み重ねていってほしいと思います。

何かを成し遂げるとき、準備は必要ですが、明日のため、未来の自分のために準備をたくさん積み重ねていくことで安心感が生まれると思います。それにより、落ち着いて自分の力を最大限に表現することができるようになるかと思えます。

サッカーワールドカップ日本代表に見られる困難を乗り越えた活躍は、私たちに大きな感動と勇気を与えました。それを忘れることなく、これから先の青少年の未来に向け、元気があり、笑顔が溢れる地域の環境づくりに皆様の御協力を宜しくお願い申し上げます。

南部中学校区青少年健全育成会副会長
清水 哲夫



生徒が通いたくなる学校・保護者が通わせたい学校・地域が誇れる学校へ

南部中学校の取り組み



校訓である「南中魂」は、「やる気・根気・元気・本気」に表され、あらゆる場面でこの四つの気を持って取り組むことが、南部中学校の目指す生徒像となっています。今年度も、生徒たちは南中魂を持って様々な活動に取り組みました。

二大行事である「文化発表会」や「体育大会」においては、生徒自身が目標を立て、仲間と協力しながら取り組みました。その一生懸命な姿は、見る者に感動を与えるとともに、生徒の心に残る最高の行事となりました。目標に向かってみんなで精一杯取り組んだ経験は、生徒にとって大きな糧になることでしょう。

部活動においても、多くの運動部・文化部が、全国大会や東海大会、県大会に出場しました。特に、3年生の佐藤瑞樹さんは、全日本中学校陸上競技選手権大会（3000m）において、8位入賞という素晴らしい成績を残しました。3年生が引退した現在、先輩たちの意思を受け継いで、1・2年生たちは切磋琢磨しながら頑張っています。今後も変わらぬ応援をお願いします。

学校生活の頑張りに加えて、今年度は地域の方からお褒めの言葉をいただくことが何度もありました。「けがをした高齢者の介助をしてくれた」、「交通事故に遭って車外で待っていた小さなお子さんが寒くないように制服をかけてくれた」など、嬉しいお知らせが入るたびに、全校放送で情報を共有しました。生徒がさらに地域の中で活躍できるよう、取り組みを続けていきます。



▲アクト大ホールでの文化発表会



▲地域の方との交流・意見交換

ふたばレンジャーによるあいさつ運動

双葉小学校では、運営委員会の子供たちが、毎朝、あいさつ運動を行っています。

あいさつ運動は、昇降口や校門、職員室前に立ってあいさつをする日と各教室を回ってあいさつをする日があります。

「双葉小学校に、もっと明るいあいさつを広げたい!」といった思いを持ち、運営委員の子供たちが「ふたばレンジャー（双葉小オリジナルキャラクター）」になってあいさつ運動を盛り上げてくれています。



「ふたばレンジャー」の活躍により、今では多くの子供が明るく、元気のよいあいさつを進んでしたりあいさつを返したりするようになりました。

今後も、子供たちが、あいさつをすることの意義を感じ、創意工夫を凝らしながら、双葉小学校に明るいあいさつの輪を更に広げていくことができるよう、子供たちを支援、励ましていきたいと思えます。

「ふたばレンジャー」

竜禅寺小学校 ～キャリア教育の推進、ドラゴン発表会を通じて～

11月22日（火）にドラゴン発表会を行いました。本校では、キャリア教育の考えの基、「子供たちに育てたい能力の育成指標」から狙いを定め、各学年でキャリア教育年間指導計画に発表会を位置付けすることで、学校教育目標「夢を持ち ともに輝く」の具現を目指して取り組んできました。

コロナ禍の影響で本年度も該当学年の保護者のみの参観とし、他学年の児童はリモートによる鑑賞を行いました。児童は、学んできたことを保護者や他学年の児童に発表することを通して、学ぶことの意義を実感することができました。また、発表会後には、狙いの一つである「友達の演奏や発表を聴き、互いの良さを認め合う。」を受けて、ペア学年同士で感想のメッセージを書きました。

相手の良さや頑張りを認め合う児童の温かい言葉を読むと、本校が目指す児童像「他者との関係の中で自分を高める竜禅寺小の子」が着実に育っていると感じ、うれしく思いました。



「ドラゴン発表会」

あいさつ いっぱい 白脇の子！！

白脇小学校では、今年度の5つの大切な柱として

1. みんなで力を合わせて学習や運動をします。
2. 時と場に合ったあいさつや返事をします。
3. 友達に「ありがとう」「ごめんなさい」を言います。
4. ふわふわ言葉を使います。
5. 友達の名前には「さん」をつけます。

を掲げ、児童の健全な成長を目指しています。

この中でも、時と場に応じたあいさつや返事をする力を育てるために、毎朝、生活安全委員会を中心に「あいさつ運動」を実施しています。これによって、自らあいさつをすることができる児童の育成をねらいとしています。

時と場に応じた適切な言葉づかいやあいさつはコミュニケーションの基本です。未知の人とあいさつを交わすことから新たな人間関係を築くこともできます。

「あいさつ」には、相手に迫って「心を開く」という意味があります。よって、あいさつ運動には、あいさつを交わしてみんなの心を通い合わせていこうというねらいもあります。

最初は恥ずかしそうにしている児童や元気がないような児童も回数を重ねると、とても元気よくあいさつを交わせるようになってきました。

白脇小は大変人数が多い学校なので、元気のよいあいさつが学校周辺に響きわたっています。

いつまでも元気のよい子供たちの声が聞こえる学校であってほしいと思います。



「元気いっぱいあいさつ運動」

いい声掛けデーの取り組みを紹介します！！

毎年11月11日は、『ひとりひとりにいい声掛けデー』となっています。

「地域の大人から子供へ愛のひと声を！」を合言葉に、安心・安全な地域づくりを目指す活動です。

南部中学校区の各校の取り組みの様子を写真でご覧ください。

【 南部中学校 】



【 双葉小学校 】



【 竜禅寺小学校 】



【 白脇小学校 】

